



吉備国際大学大学院(通信制)  
知的財産学研究科特任教授

## 加賀山 茂

Shigeru Kagayama

72年大阪大学法学部卒業。明治学院大学法科大学院教授等を経て、18年より現職。著作「民法改正案の評価—債権関係法案の問題点と解決策」(信山社、2015)、「求められる改正民法の教え方」(信山社、2019)ほか。

# XMLによる情報整理の薦め

情報は逐次整理しないと拡散する。たとえ情報をうまく整理できたとしても、個々の情報をテーマに基づいて関連付け、検索できるようにしておくのは容易ではない。

情報整理の理想像は、全体と部分とを一つのデータの中で体系的な木構造に沿って位置付けることにより、部分を隠して全体を俯瞰することも、また、木構造をたどって細部まで確実に見ることもできる仕組みの下で、情報を一元的に管理することにある。その良い見本が、世界地図から住宅地図まで、すべてのシーンをズームレスに見ることができるGoogleマップである。そして、そのような理想の情報整理を実現する方法として、XML(拡張可能なマークアップ言語)がある。

# Opinion

XMLの利点として、まずテキストファイル形式であるため、誰でも読み書きできる点が挙げられる。しかも、Internet ExplorerやMicrosoft Edgeで読み込むと、美しい木構造として表現され、必要な箇所を随時展開して細部を閲覧することもできるし、不要な部分は折りたたんで隠すことができるため、Googleマップと同様に、全体から細部にわたる情報へと、また、細部の情報から全体像へと自由自在に行き来することができ。また、HTMLのタグはすべて決定され変更できないのに対し、XMLのタグは作成者の法則に従って自由に作成し、機能させることができるため、どのような文書でも、体系的かつ一元的に整理することが可能である。

現在筆者は、研究テーマである民法を、現行法令データベースからXML形式でダウンロードし、縦書き用に特化されているため利用に不便な漢数字表現をすべて適切なアラビア数字に自動変換するためのPythonのプログラムを作成して、横書き用に変換して基礎に据えている。さらに、現行法令データベースに不足している削除条文の追加や、ほかの法令への移転情報、立法理由、判例、学説を、XMLの中に適切に埋め込む作業を行っている。これが完成すると、民法に関する歴史、判例、学説、比較法に関するすべての情報を一つのファイルによって閲覧することが可能になる。すなわち、民法の進化したGoogleマップが完成することになる。

と連携させて使うには、プログラミング言語の併用が必要になるなど、一般の人がXMLを自由に駆使できるようにするまでには、まだしばらく時間が必要になると思われる。しかし、文書整理の終着点XMLであることがほぼ明らかとなっている現状においては、未来を見据えて情報処理を行うのであれば、すべての文書のXML化を行い、将来に備えることが、今後の事務の効率化に資するために必要であろう。

なお、筆者が作成中の民法体系XML(<http://cyberlawschool.jp/kagayama/civ.xml>)は、Internet ExplorerまたはMicrosoft Edgeで閲覧できる。